

大通公園を望む窓辺から

「少子化日本」

常任理事 伊藤 利道

7月に日医で行われた男女共同参画フォーラムに出席しました。その中の座談会で黒川清東大名誉教授は、「日本では非嫡出子は2%であるが、フランスやスウェーデンは5割を超えている」と話されていました。日本では女性の力が弱く、まだまだ男尊女卑の社会であるという話の中で出てきました。初めて聞いた話でしたので、「日本では、結婚している両親から生まれる子がほとんどなのに、フランスやスウェーデンは結婚していない両親から生まれる子の方が多いんだ。結婚しなくても女性一人でも仕事と子育てを両立できるんだ。女性一人になっても仕事と子育てを両立できる経済的・社会的環境が整っているんだ」と思いました。

そこで、ちょっと調べてみました。フランスもスウェーデンも2人以上子どもを育てると、手厚い手当が出たり、税金が安くなったりします。またフランスでは、ユニオンリーブル（自由縁組み）というカップルの生き方が一般化しています。法律婚にとらわれないカップルが社会的に認知されるようになっております。スウェーデンでは、サムボ（事実婚、同棲）制度によるカップルが多く、法律婚のカップルの9割以上がサムボを経験しており、お試し期間として機能していると考えられています。両国とも婚外子に対する法律上の差別はなく、法律婚カップルの子と同様の権利が保障されています。

このような国を挙げての取り組みの結果として、両国では出生率が高くなっております。

フランスでは、合計特殊出生率が1994年に1.65で最低となり、2010年に2.01に回復。スウェーデンでは1999年に1.5で最低となり、2010年には1.98と回復しています。日本は2011年で1.39でした。出生率2.07で人口を維持できるといわれておりますので、急激に人口が減少しております。政府も少子化対策を最重要課題の一つとしており、種々な政策をとっておりますが、効果は出てないようです。フランスでは手当をもらうために子どもを沢山作る傾向もあるようで、海外のやり方がいいかどうか、それをそのまま日本に持ち込むのがいいかわかりませんが、相当大胆な政策を実行しないと、人口減少を食い止めることはできないように思います。

道北ドクターヘリ

理事 山下 裕久

道北ドクターヘリが昨秋5周年を迎えた。前任の故増田一雄先生が頑張ってください、道央ヘリに続いて道東ヘリと同時配備となって、総運航数は2,000回を超えた。

運航調整委員長なるものを拝命し活動状況をお聞きしているが、昨年度の要請数は744件、出動数が504件で全国43基地病院中のおおの11位、15位の高順位という。基地病院の旭川赤十字病院はもとより、旭川医大病院、市立旭川病院のフライトドクターに、看護師、運航スタッフ、地域病院、消防、警察など各界のご協力で、四国全域に匹敵する広域を守ってくださっている。

頻回行われる事例検討会には多くの関係者が集まり、持ち回りの安全研修会では道央、道東、道北ドクターヘリの責任者が同席され、講演会などが開催されて勉強になる。おしなべて地方の住民が利用すると思われがちだが、実は都会の人が遠方に出かけての事故で搬送されることも数多くあり、先日の検討事例もそうであった。

ドクターヘリの函館配備が今月16日に予定されている。広い北海道が4機態勢となるのは喜ばしい。しかし、ドイツの50キロ圏に1機の配備と比べると未だしである。先日、NHKでドクターヘリが取り上げられ、全国で年間6万回超の出動とあり、運航会社は運航増が赤字をもちたすとも言うていた。運用に保険点数算定や国のさらなる援助を望む声は多い。オスプレイ様の垂直離陸小型機が欧州にある？とも聞いたが・・・

地域医療ビジョンの中に広域救急医療の考えが入っていて当然である。緊急事態をカバーしあえることが、疲弊する地域医療に貢献する医師の支えになる。ともあれ、乗員・スタッフの活躍に御礼申し上げるとともに、広い北海道にとっては、ドクターヘリのさらなる配備や、防災ヘリ、自衛隊ヘリとの協力、さらにメディカルウイングといった機動的医療の必要性が高まっていると思う。

